

まえがき

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野 公開日: 2023-02-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長沼, さやか, 山本, 達也, 彭, 宇潔 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00029330

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野では、毎年5月下旬から6月上旬にかけての時期に、4泊5日の日程で静岡県内の調査地に泊まり込み、その土地の人々の暮らしについて学ぶフィールドワーク実習を実施しています。参加するのは本分野に在籍する学部3年生です。調査地は教員が選定しますが、その後は学生が文献や統計、地図などの資料を集め、現地を下見するなど事前準備を進め、自らの関心にそってテーマを設定して本調査にのぞみます。

今年度の調査地は静岡市清水区蒲原でした。実習期間は5月29日（日）から6月2日（木）までで、教員3名と学生8名（愛宕滯、アルヴィン パトリア、板倉廉、大石啓翔、片野ひかる、重原安奈、谷口結香、二宮優衣）が参加しました。また、大学院生2名（田雨霏、李昌昊）、研究生1名（陳晨）もオブザーバーとして加わりました。昨年同様、新型コロナウイルス感染対策のため宿泊はせず、蒲原三丁目のBACKPACKERS HOSTEL 燕之宿の coworkingスペースをお借りし、そちらに毎日通いながら現地調査を実施しました。

蒲原は1889年に庵原郡蒲原町となって以降、2006年に静岡市に編入合併されるまでの間、長く町政を維持してきました。蒲原のまちの中央に位置する生涯学習交流館の周辺には、図書館、体育館、プールなどの施設が立ち並び、町政時代から町が福祉や教育に力を入れてきたことが見て取れます。また、合併後の蒲原は、西隣の庵原郡由比町（現・清水区由比）が2008年に静岡市と合併するまでの2年間、静岡市の飛び地だったことでも知られています。飛び地問題がなくなった現在も、蒲原は静岡市の最東端に位置し、まちを横切る鉄道やバイパス、高速道路を利用すれば、東西のどちらにも出てゆきやすい土地柄です。このようなマージナルな土地で生きる人びとの柔軟性、行動力から、学生たちは多くのことを学びました。

調査にあたっては、たくさんの方々からご支援を賜りました。蒲原地区連合自治会会長の服部和博さんには、本調査実習の目的をご理解いただき、地域の皆さまに私たちをご紹介いただくなど、多大なお力添えをいただきました。また、BACKPACKERS HOSTEL 燕之宿のオーナー・大澤康生さんには、coworkingスペースを調査拠点として使いやすくしていただいたおかげで、実習期間をととも快適に過ごすことができました。また、地域の方々や学生との橋渡し役にもなっただき、たいへん助かりました。ほかにも紙幅の関係上、お名前を申し上げられない皆様をふくめて、この場で厚くお礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記のURLからもご覧いただけます。

<http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/>

令和4年12月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野
長沼さやか・山本達也・彭宇潔